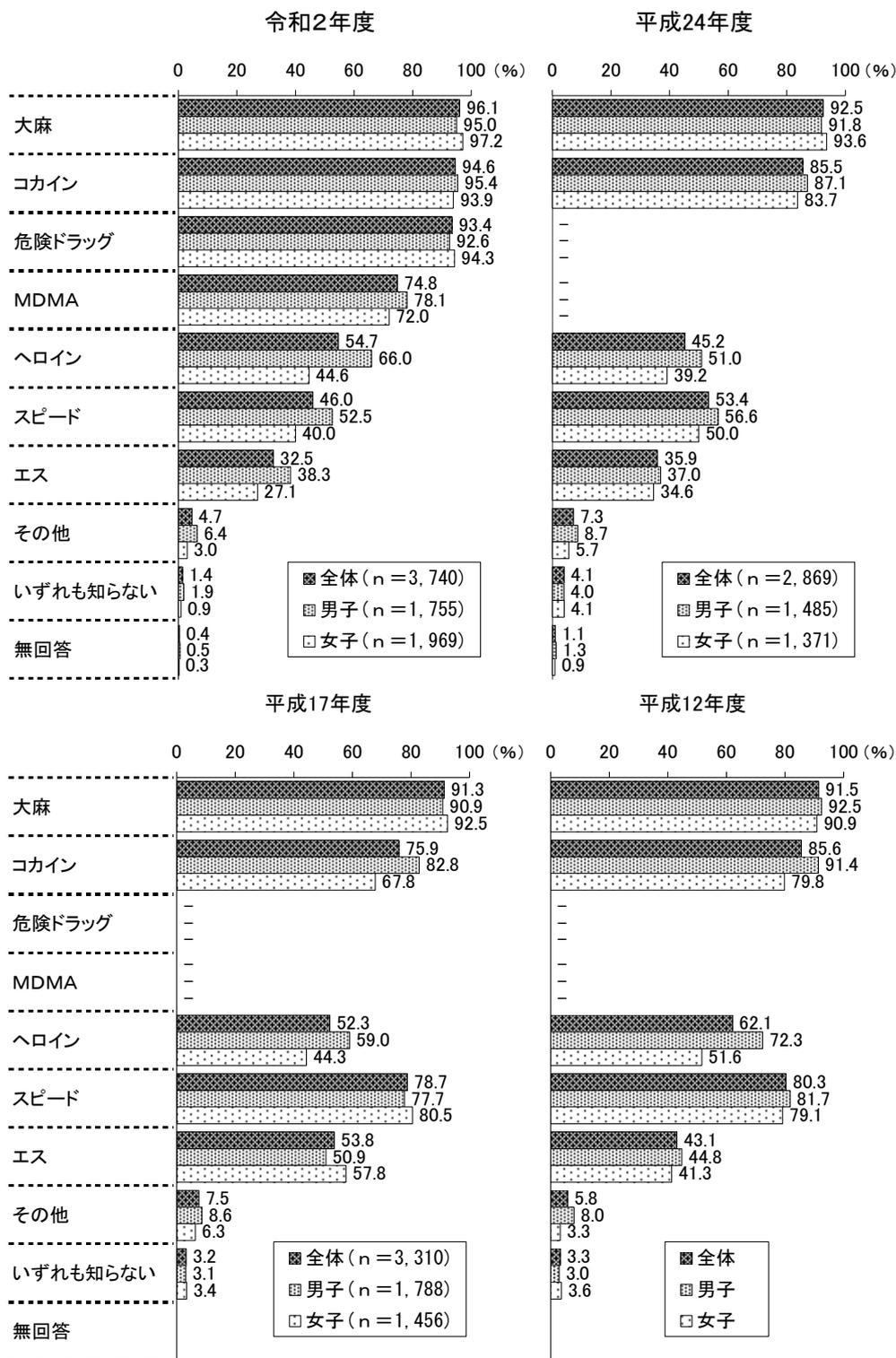


5. 薬物

(1) 薬物の認知状況

問24 乱用すると有害な薬物である知っているものはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。その他にはさらに知っている場合、記入してください。

図表5-1-1 薬物の認知状況（経年比較）〔複数回答〕



※「危険ドラッグ」、「MDMA」は令和2年度から追加された選択肢

乱用すると有害な薬物であると知っているものはどれか聞いたところ、「大麻」が96.1%で最も高く、次いで「コカイン」（94.6%）、「危険ドラッグ」（93.4%）、「MDMA」（74.8%）となっている。

男女別でみると、「ヘロイン」は男子（66.0%）が女子（44.6%）より21.4ポイント、「スピード」は男子（52.5%）が女子（40.0%）より12.5ポイント、「エス」は男子（38.3%）が女子（27.1%）より11.2ポイント、それぞれ高くなっている。

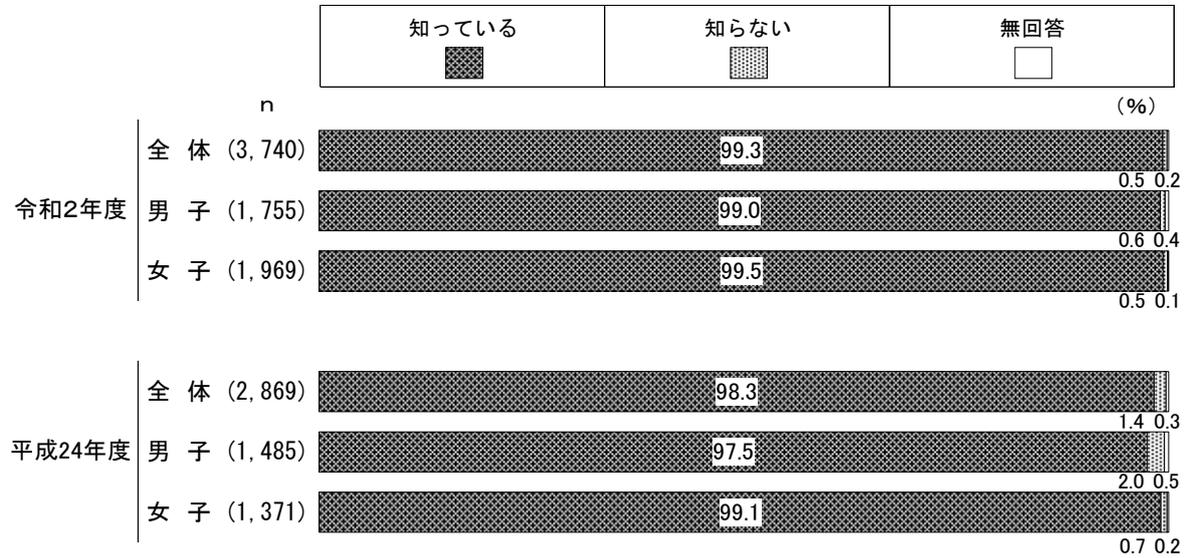
過去の調査と比較すると、全体では「ヘロイン」は平成24年度より9.5ポイント、「コカイン」は平成24年度より9.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「スピード」は平成24年度より7.4ポイント減少している。

男女別では「ヘロイン」は平成24年度より男子で15.0ポイント、「コカイン」は平成24年度より女子で10.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「スピード」は平成24年度より男子で4.1ポイント、女子で10.0ポイント、それぞれ減少している。

(2) 薬物乱用による薬物依存状態の認知

問25 大麻や覚せい剤などの薬物乱用を繰り返すと、薬物依存状態（やめたくても、やめられない状態）になることを知っていますか。

図表 5-2-1 薬物乱用による薬物依存状態の認知（経年比較）



※平成 24 年度の設問文は、「シンナー遊びなど薬物乱用には習慣性（やめられなくなるなど）があることを知っていますか。」としていた

大麻や覚せい剤などの薬物乱用を繰り返すと、薬物依存状態になることを知っているか聞いたところ、「知っている」が99.3%、「知らない」は0.5%となっている。

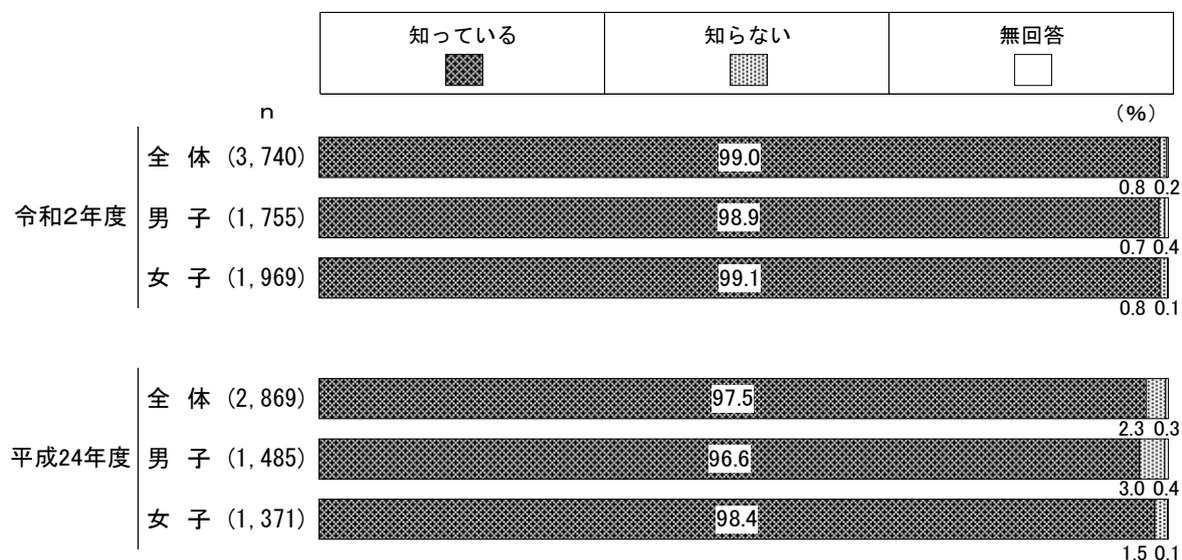
男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

(3) 脳などへの影響の認知

問26 薬物乱用を繰り返すことによって、脳など身体がぼろぼろになることを知っていますか。

図表5-3-1 脳などへの影響の認知（経年比較）



※平成24年度の設問文は、「シンナー遊びを繰り返すことによって、脳や肝臓がぼろぼろになることを知っていますか。」としていた

薬物乱用を繰り返すことによって、脳など身体がぼろぼろになることを知っているか聞いたところ、「知っている」が99.0%、「知らない」は0.8%となっている。

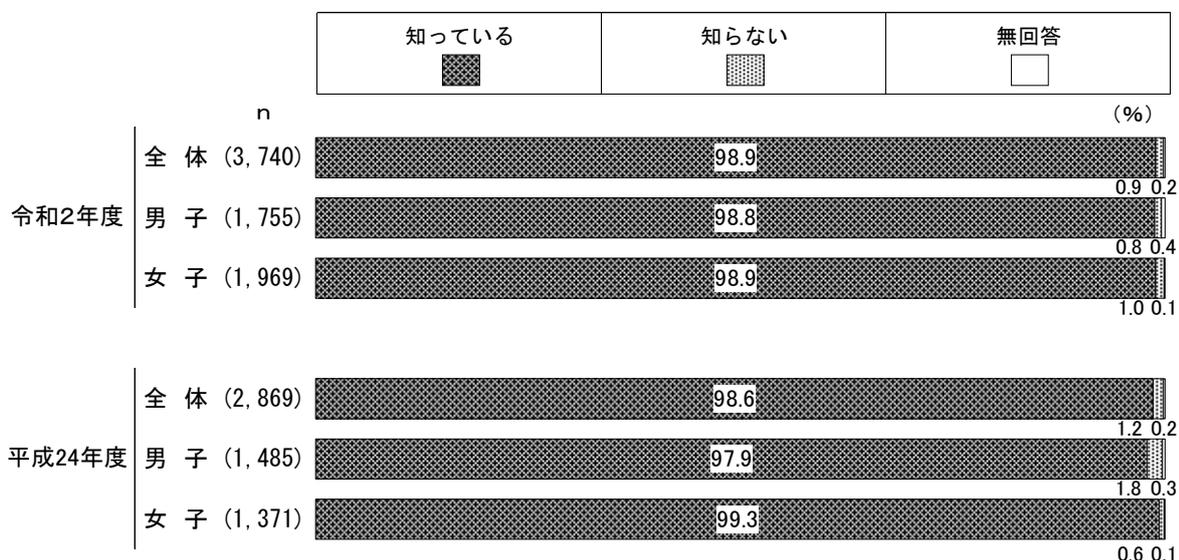
男女別で見ると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

(4) 幻視・幻聴に関する知識の認知

問27 薬物乱用を繰り返すことによって、何もないのに物が見えたり（幻視）、実際には何も聞こえないのに声が聞こえたり（幻聴）するようなことがあるのを知っていますか。

図表5-4-1 幻視・幻聴に関する知識の認知（経年比較）



※平成24年度の設問文は、「シンナー遊びを繰り返すことによって実際には何もないのに物が見えたり（幻視）、声が聞こえたり（幻聴）するようなことがあるのを知っていますか。」としていた

薬物乱用を繰り返すことによって、何もないのに物が見えたり、実際には何も聞こえないのに声が聞こえたりするようなことがあるのを知っているか聞いたところ、「知っている」が98.9%、「知らない」は0.9%となっている。

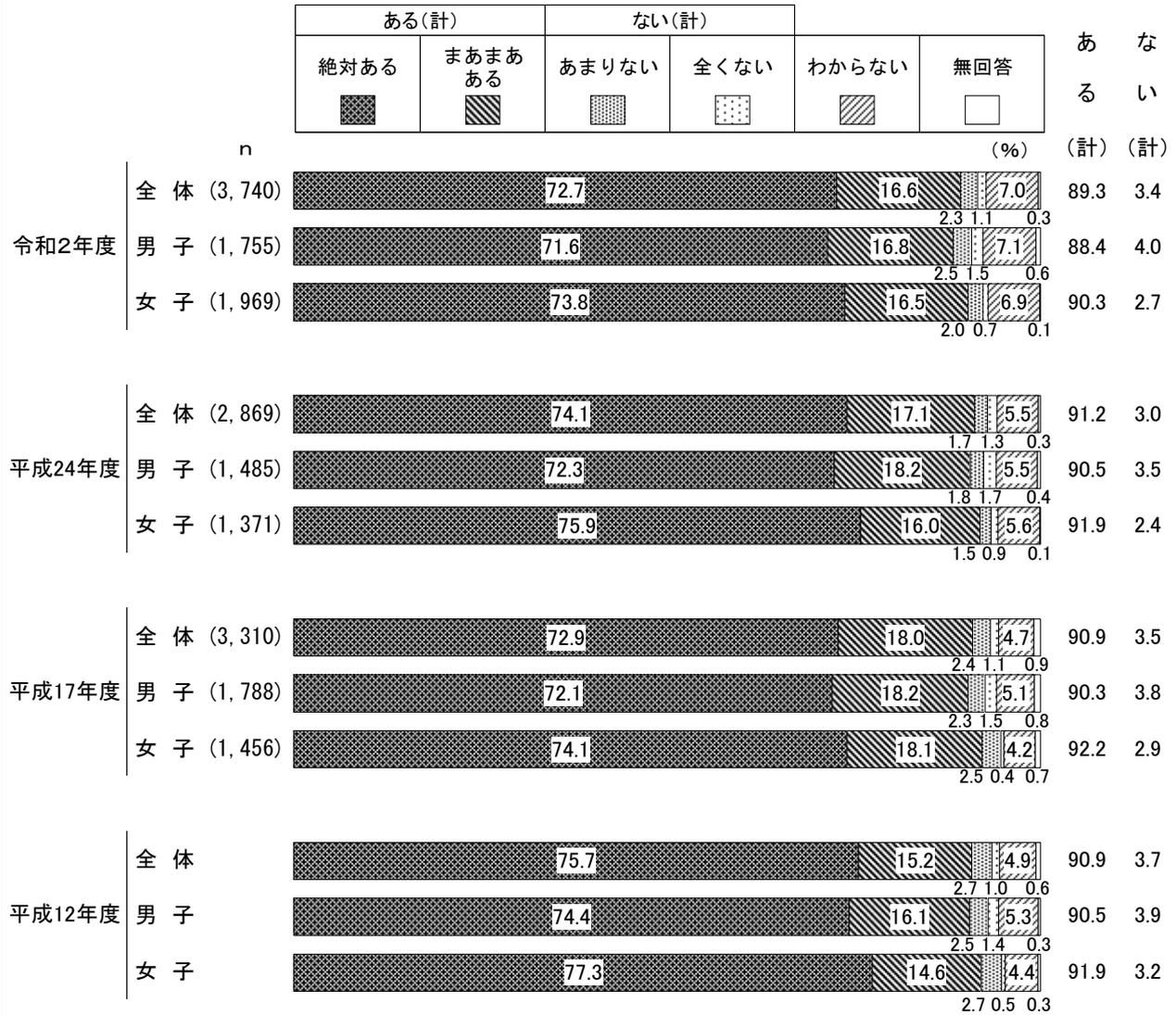
男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

(5) 薬物使用のすすめを断る自信度

問28 大麻や覚せい剤などの薬物の不正な使用をすすめられたら、あなたは断る自信がありますか。

図表5-5-1 薬物使用のすすめを断る自信度（経年比較）



※平成24年度までの設問文は、「シンナー遊びや覚せい剤などの薬物の不正な使用をすすめられたら、あなたは断る自信がありますか。」としていた

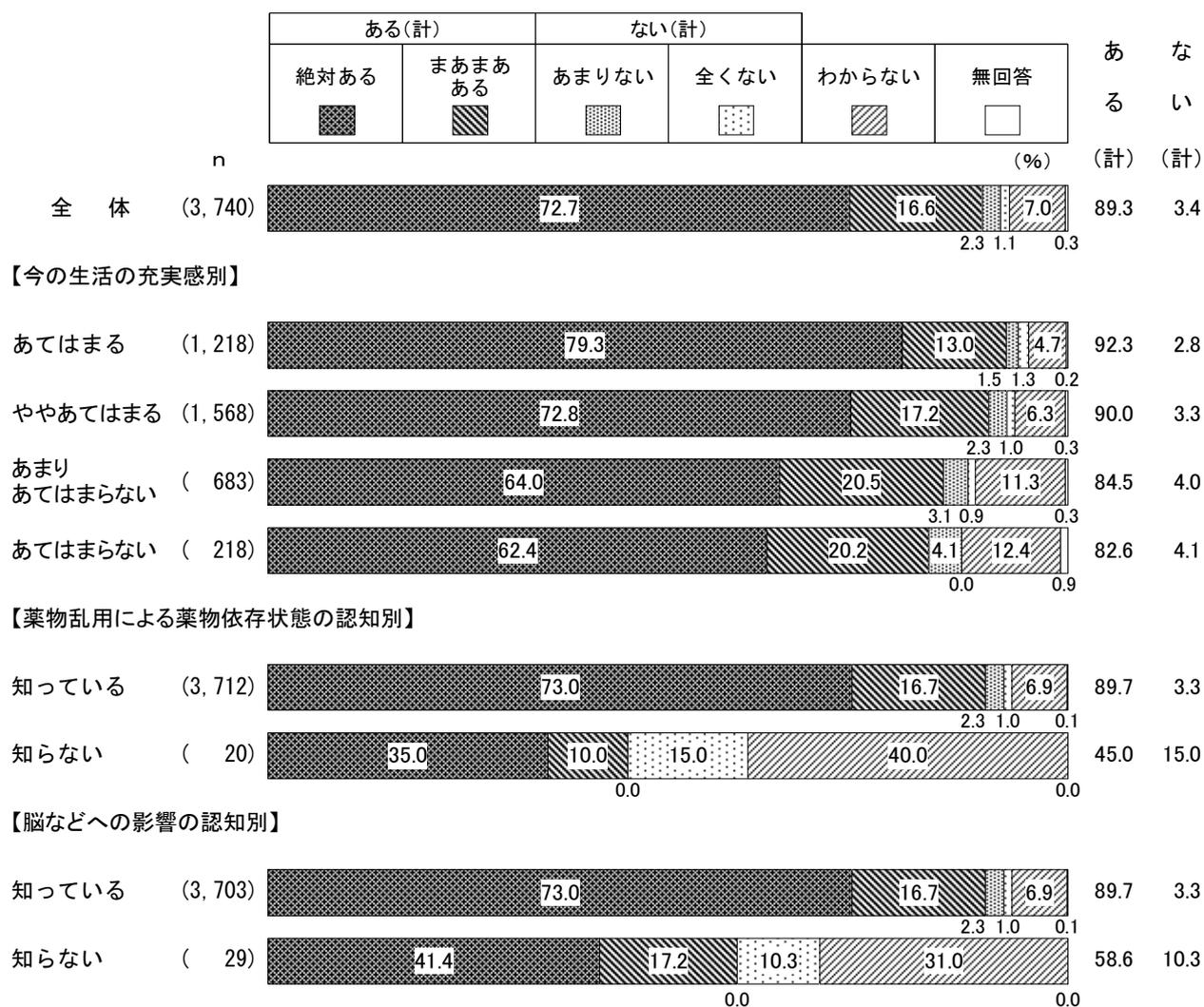
薬物の不正な使用をすすめられたら、断る自信があるか聞いたところ、「絶対ある」が72.7%で最も高く、これに「まあまあある」(16.6%)を合わせた『ある(計)』は89.3%となっている。一方、「あまりない」(2.3%)と「全くない」(1.1%)を合わせた『ない(計)』は3.4%となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表5-5-2 薬物使用のすすめを断る自信度

(今の生活の充実感別、薬物乱用による薬物依存状態の認知別、脳などへの影響の認知別)

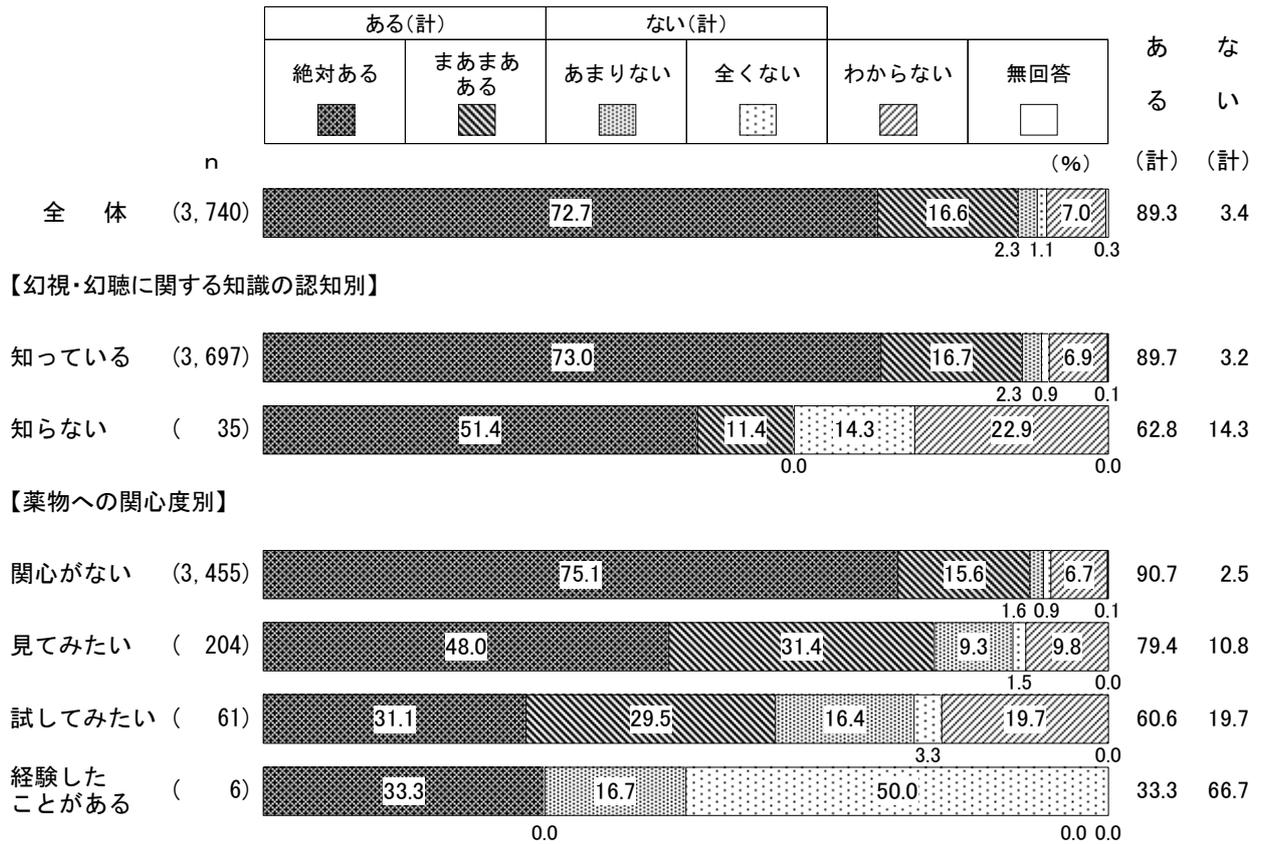


今の生活の充実感別でみると、『ある(計)』は今の生活の充実度が高くなるほど割合が高く、“あてはまる”で92.3%と高くなっている。

薬物乱用による薬物依存状態の認知別でみると、『ある(計)』は“知っている人”(89.7%)が“知らない人”(45.0%)より44.7ポイント高くなっている。

脳などへの影響の認知別でみると、『ある(計)』は“知っている人”(89.7%)が“知らない人”(58.6%)より31.1ポイント高くなっている。

図表 5-5-3 薬物使用のすすめを断る自信度（幻視・幻聴に関する知識の認知別、薬物への関心度別）



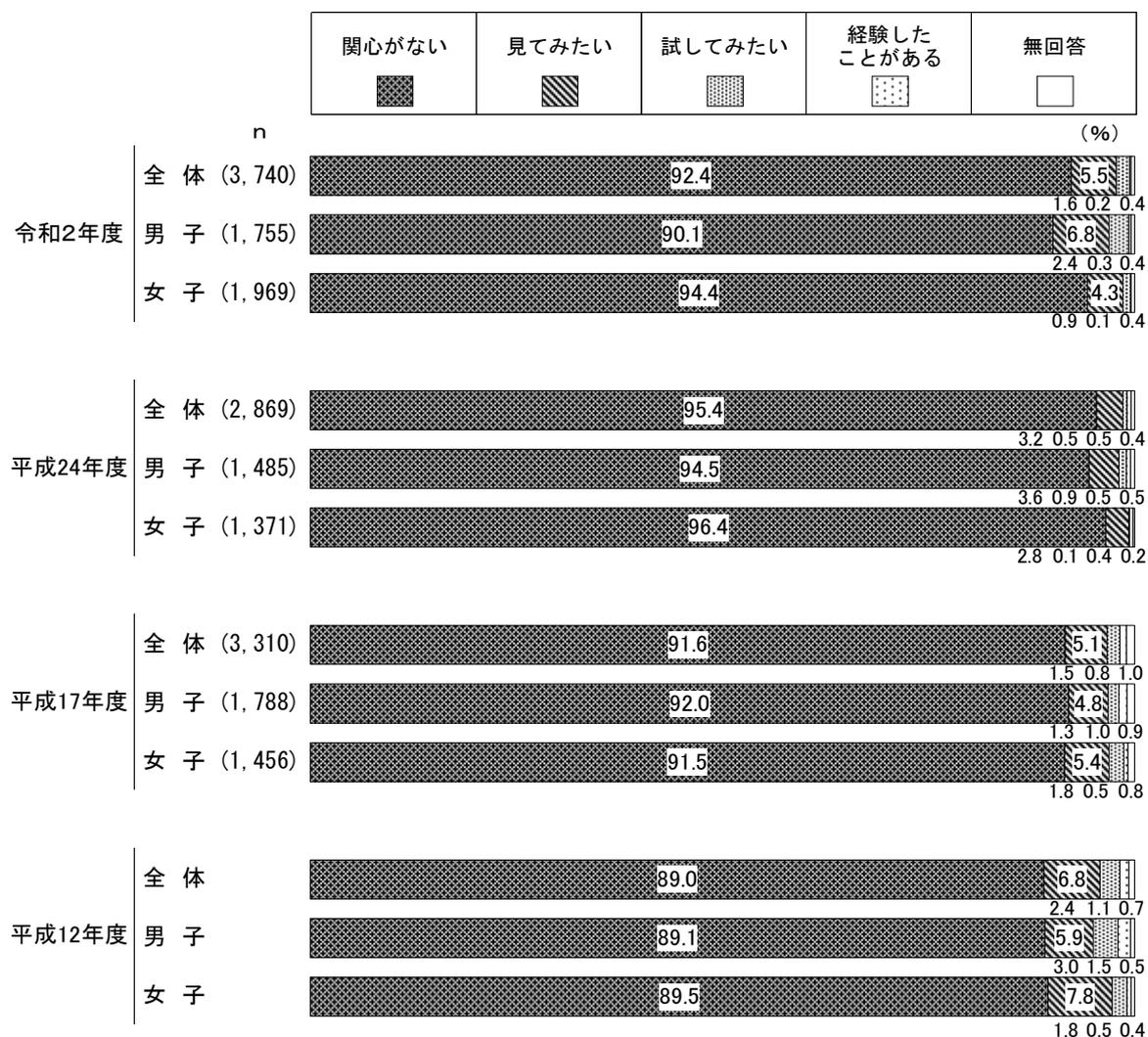
幻視・幻聴に関する知識の認知別でみると、『ある(計)』は“知っている人”(89.7%)が“知らない人”(62.8%)より26.9ポイント高くなっている。

薬物への関心度別でみると、『ある(計)』は薬物への関心度が低くなるほど割合が高く、“関心がない”で90.7%と高くなっている。

(6) 薬物への関心度

問29 大麻や覚せい剤などについて、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか。

図表5-6-1 薬物への関心度（経年比較）



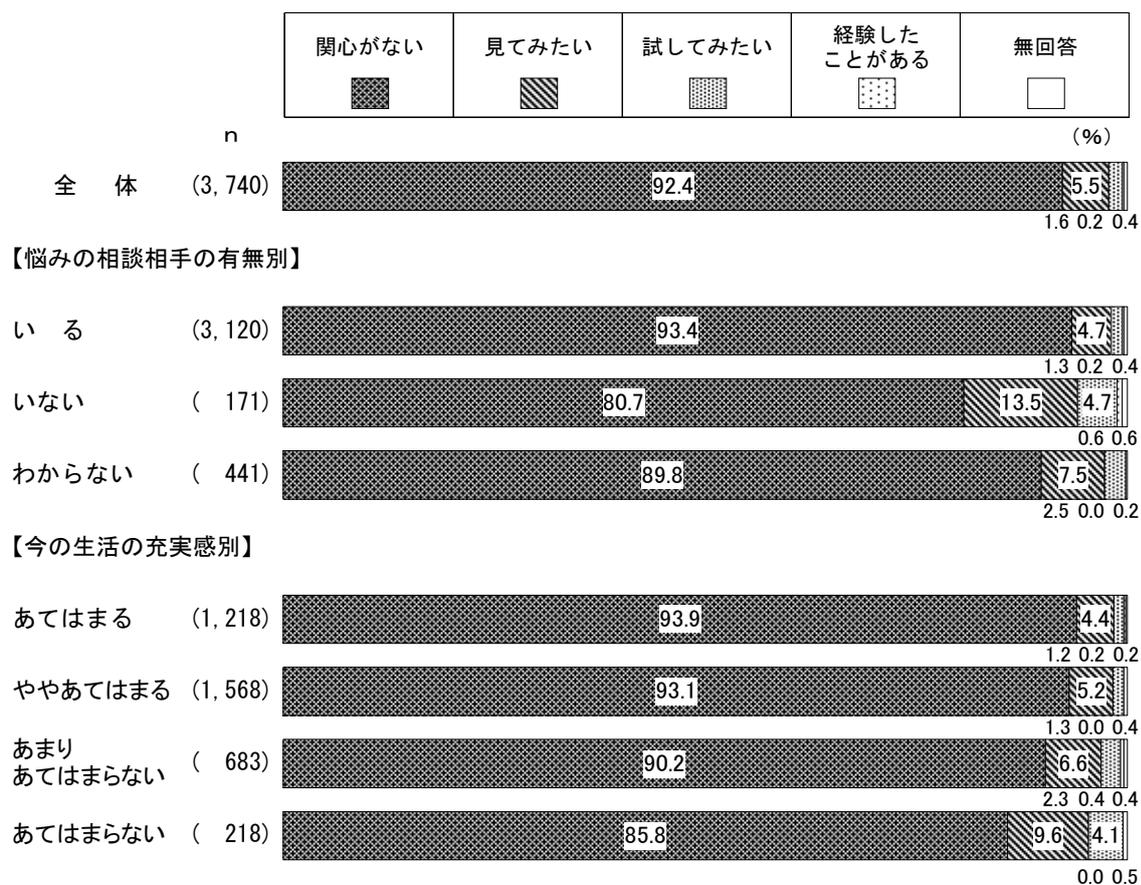
※平成24年度までの設問文は、「シンナー遊びについて、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか。」としていた

薬物への関心度について聞いたところ、「関心がない」が92.4%となっている。一方、「見てみたい」は5.5%、「試してみたい」は1.6%、「経験したことがある」は0.2%となっている。

男女別で見ると、「関心がない」は女子（94.4%）が男子（90.1%）より4.3ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「関心がない」は平成24年度より3.0ポイント減少している。男女別では「見てみたい」は平成24年度より男子で3.2ポイント増加している。一方、「関心がない」は平成24年度より男子で4.4ポイント減少している。

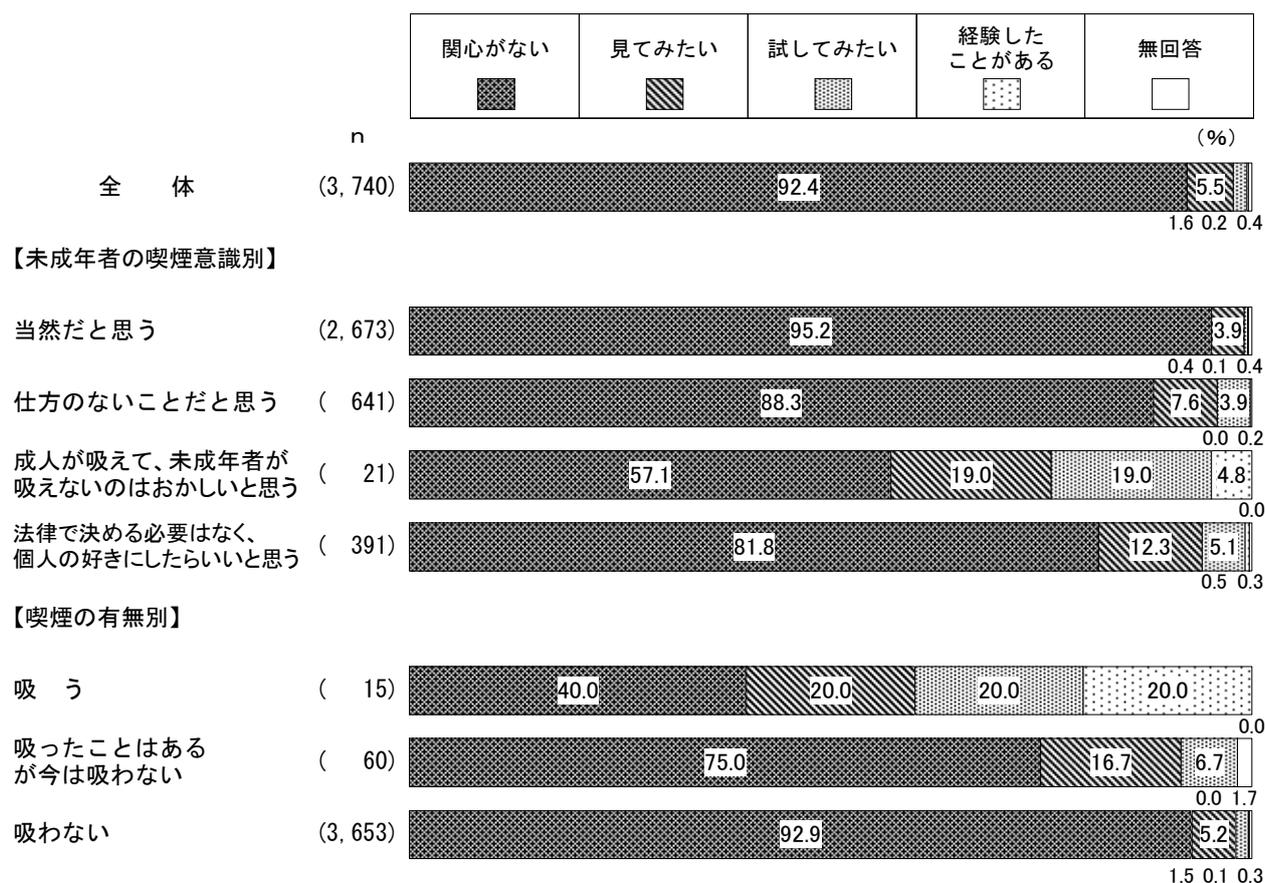
図表 5-6-2 薬物への関心度（悩みの相談相手の有無別、今の生活の充実感別）



悩みの相談相手の有無別で見ると、「関心がない」は“悩みの相談相手がいる人”（93.4%）が“悩みの相談相手がない人”（80.7%）より 12.7 ポイント高くなっている。一方、「見てみたい」は“悩みの相談相手がない人”（13.5%）が“悩みの相談相手がいる人”（4.7%）より 8.8 ポイント高くなっている。

今の生活の充実感別で見ると、「関心がない」は今の生活の充実度が高くなるほど割合が高く、“あてはまる”で 93.9% と高くなっている。一方、「見てみたい」と「試してみたい」はともに今の生活の充実度が低くなるほど割合が高くなっている。

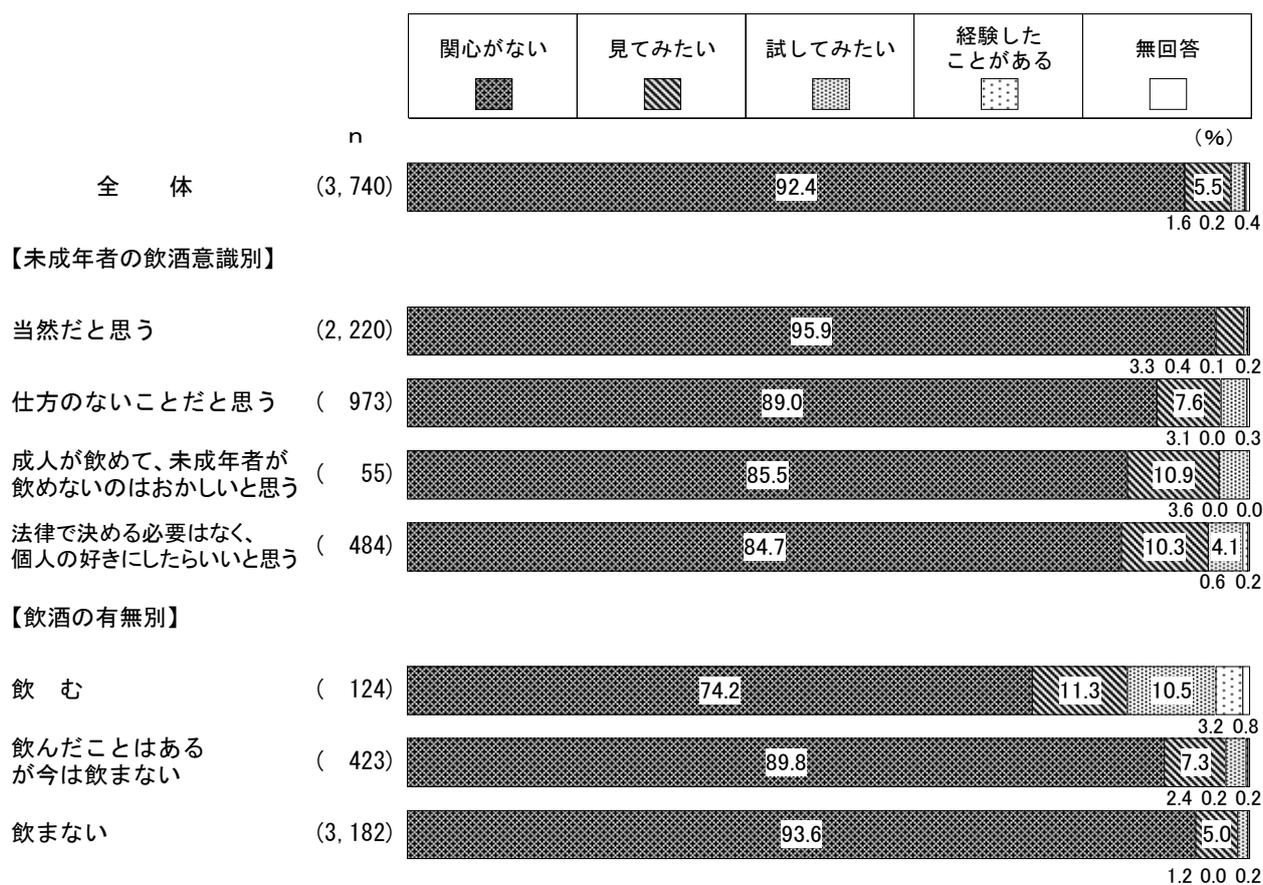
図表 5-6-3 薬物への関心度（未成年者の喫煙意識別、喫煙の有無別）



未成年者の喫煙意識別でみると、「関心がない」は“当然だと思う”で95.2%と高くなっている。「見てみたい」と「試してみたい」は“成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う”でともに19.0%となっている。

喫煙の有無別でみると、「関心がない」は“吸わない人”で92.9%と高くなっている。

図表 5-6-4 薬物への関心度（未成年者の飲酒意識別、飲酒の有無別）



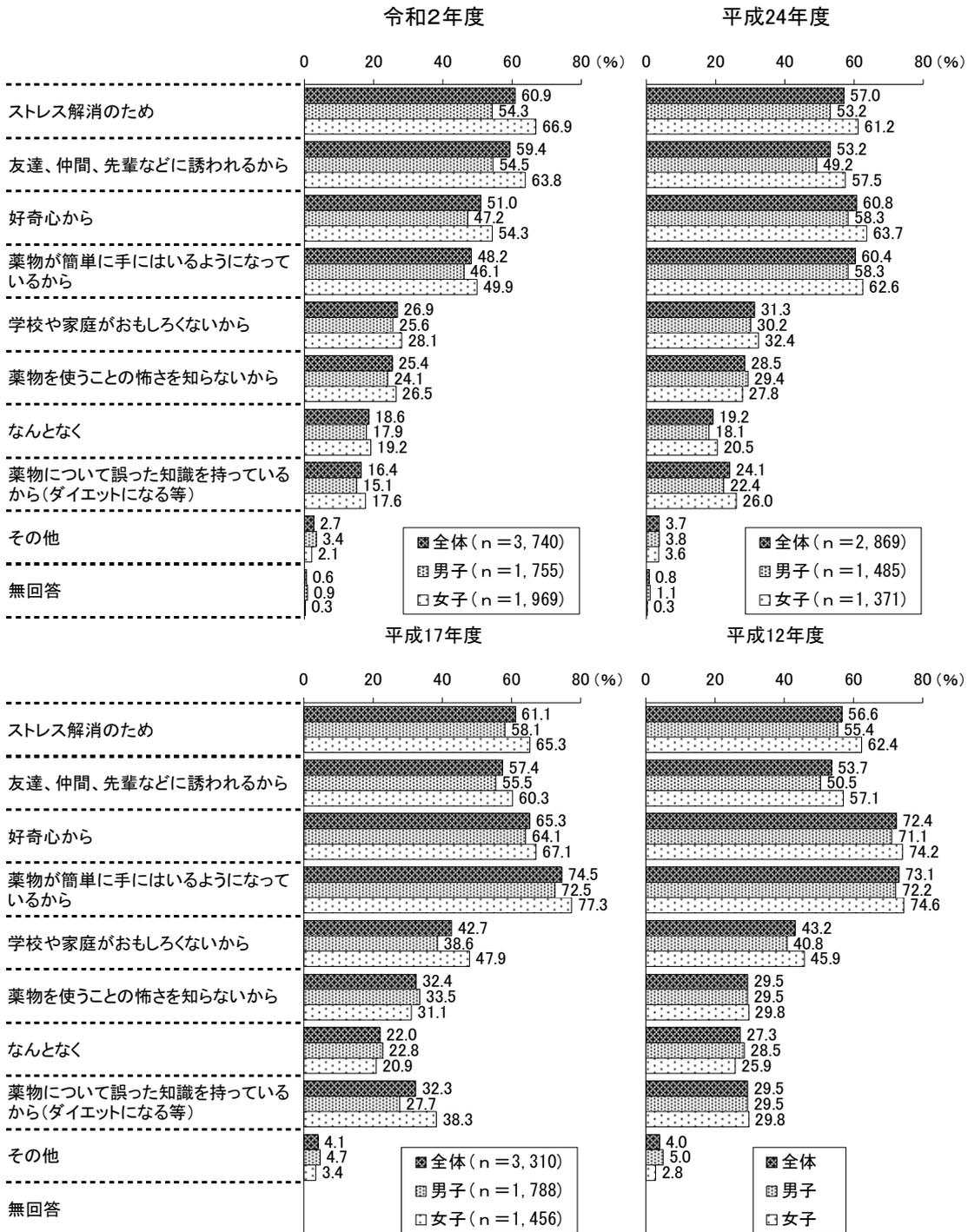
未成年者の飲酒意識別でみると、「関心がない」は“当然だと思う”で95.9%と高くなっている。

飲酒の有無別でみると、「関心がない」は“飲まない人”で93.6%と高くなっている。

(7) 若者の薬物乱用に対する認識

問30 大麻や覚せい剤などの薬物を乱用する若者が増えているのはどのような理由からだと思えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。その他にはさらに理由があるとと思われる場合、記入してください。

図表5-7-1 若者の薬物乱用に対する認識（経年比較）〔複数回答〕



※「友達、仲間、先輩などに誘われるから」は、平成17年度では「友達などに誘われるから」としていた
 ※「薬物について誤った知識を持っているから(ダイエットになる等)」は、平成17年度では「誤った知識を持っている」としていた
 ※平成24年度の設問文は、「シンナーや覚醒剤などの薬物を乱用する若者が増えているのはどのような理由からだと思えますか。」としていた

薬物を乱用する若者が増えている理由を聞いたところ、「ストレス解消のため」が60.9%で最も高く、次いで「友達、仲間、先輩などに誘われるから」(59.4%)、「好奇心から」(51.0%)、「薬物が簡単に手にはいるようになっているから」(48.2%)となっている。

男女別でみると、「その他」を除くすべての項目で女子が男子より高くなっており、「ストレス解消のため」は女子(66.9%)が男子(54.3%)より12.6ポイント、「友達、仲間、先輩などに誘われるから」は女子(63.8%)が男子(54.5%)より9.3ポイント、それぞれ高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「ストレス解消のため」は平成24年度より3.9ポイント増加している。一方、「薬物が簡単に手にはいるようになっているから」は平成24年度より12.2ポイント、「好奇心から」は平成24年度より9.8ポイント、それぞれ減少している。

男女別では「ストレス解消のため」は平成24年度より女子で5.7ポイント増加している。一方、「薬物が簡単に手にはいるようになっているから」は平成24年度より男子で12.2ポイント、女子で12.7ポイント、それぞれ減少している。「好奇心から」は平成24年度より男子で11.1ポイント、女子で9.4ポイント、それぞれ減少している。